第３回事業評価監視委員会　審議案件一覧（道路事業：事後評価）

資料1

番号	審議区分	県名	事業名 ［ ］は事業延長	事後評価実施理由 （ ）は開通年月	前回評価年度 （再評価）	費用対効果分析の要因の変化								主な整備効果	対応方針(案)	R1現況交通量（加重平均値）	
						全体事業費		事業期間		R12将来交通量（加重平均値）		《参考》B/C				実測値 ※R1.10実測	《参考》推計値 ※R1開通ネット(実測値と同条件のネットワーク)で算出
						前回（再評価）	今回【 】は前回との差	前回（再評価）	今回【 】は前回との差	前回（再評価）	今回【 】は前回との差	前回（再評価）	今回【 】は前回との差				
1 （資料3-1）	要点	青森	一般国道101号 五所川原西バイパス ［3.8㎞］	開通後 ５年以内 （H26.11）	H25	完成2車線 138億円	完成２車線 138億円	完成2車線 11年 H16～H26	完成２車線 11年 H16～H26	8,200台/日 ■H25事業化ネット ・当該道路：2車線 ■推計：H17OD第2段階改善を反映	5,800台/日【-2,400】 将来OD見直しによる減 ■R1事業化ネット ・当該道路：２車線 ・周辺：津軽道(柏～浮田)事業化 ■推計：H22OD	1.9	1.3 【−0.6】 交通量減によりB／C減	①五所川原市街地の混雑緩和 ②並行現道101号及び県道の事故減少 ⑤つがる地域の地域産業支援 ⑥交通結節点へのアクセス向上、周遊観光を支援 ⑧大規模小売店の出店等日常生活利便性向上を支援	事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。	6,400台/日	6,000台/日
2 （資料2-1）	重点	岩手	一般国道4号 渋民バイパス ［5.6㎞］	開通後 ５年以内 （H27.4）	H25	完成４車線 130億円	暫定２車線 110億円 【-20億円】 車線数の減	完成４車線 31年 S61～H28	暫定２車線 29年 S61～H26 【-2年】 車線数の減	15,900台/日 ■H25事業化ネット ・当該道路：4車線 ■推計：H17OD第2段階改善を反映	11,300台/日【−4,600】 車線数変更、将来OD見直しによる減 ■R1事業化ネット ・当該道路：２車線 ■推計：H22OD	1.3	1.2 【−0.1】 交通量減によりB／C減	①並行現道4号の混雑緩和 ②並行現道4号の事故が減少 ③災害時の信頼性が向上 ⑤岩手町周辺の地域産業の支援 ⑥道の駅と一体となった広域観光ルートの形成により観光客増加を支援 ⑩並行現道4号の沿道環境改善	事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討する。	12,700台/日	12,600台/日
3 （資料2-2）	重点	山形	一般国道13号 尾花沢新庄道路 ［18.2㎞］	開通後 ５年以内 （H26.11）	H25	完成4車線 900億円	暫定２車線 753億円 【-147億円】 車線数の減	完成4車線 34年 S61～R1	暫定２車線 29年 S61～H26 【-5年】 車線数の減	25,700台/日 ■H25事業化ネット ・当該道路：4車線 ■推計：H17OD第2段階改善を反映	21,600台/日【−4,100】 車線数変更、将来OD見直しによる減 ■R1事業化ネット ・当該道路：２車線 ■推計：H22OD	1.7	1.5 【−0.2】 交通量減によりB／C減	①並行現道13号の混雑緩和 ④県立中央病院（山形市）へのアクセス性向上 ⑤地域の農産品の輸送効率化を支援 ⑥交通結節点へのアクセス向上、周遊観光を支援 ⑦沿線工業団地への企業立地増加、製造品輸送効率化を支援 ⑧通勤圏域の拡大、道の駅入れ込み客数増等、日常生活利便性向上	事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はないが、社会状況等の変化に応じて完成形の整備を検討する。	15,700台/日	16,000台/日
4 （資料3-2）	要点	山形	一般国道13号 大野目交差点改良 ［1.2㎞］	開通後 ５年以内 （H26.8）	H25	完成4車線 104億円	完成4車線 104億円	完成4車線 11年 H16～H26	完成4車線 11年 H16～H26	33,100台/日 ■H25事業化ネット ・当該道路：4車線 ■推計：H17OD第2段階改善を反映	38,200台/日【+5,100】 将来OD見直しによる増 ■R1事業化ネット ・当該道路：4車線 ■推計：H22OD	1.7	1.9 【+0.2】 交通量増によりB／C増	①現道13号の混雑緩和 ②現道13号の事故が減少 ④県立中央病院へのアクセス性向上 ⑥交通結節点へのアクセス向上、周遊観光を支援 ⑦製造品輸送効率化を支援 ⑧通学路の安全性向上等日常生活利便性向上	事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。	43,100台/日	42,000台/日

※第１段階改善：平成22年度から反映。将来人口等を見直すとともに、各交通分野毎に推計していた生成交通量（推計のベース）を統合して推計。

※第２段階改善：平成25年度から反映。各交通分野毎に推計していた分布交通量（OD表）を統合して推計（将来交通量推計が過大にならないように、全国統一で２段階で改善）